幕末・維新の人物にふれる旅

薩摩は今も燃えている!

よっても幕末をリードできる雄藩の立場を得たのである。「様々な藩が幕末に富国強兵を掲げましたが、他藩は大砲を造るなど強兵目的が主で、本来の意味の富国へは踏み出せていなかったようです。ところが島津斉彬は豊かさを導く品にも着手。その一例が薩摩切子の工場です」と岩川さん。切子自体は長崎から伝わった外国のガラス製品をもとに江戸の職人を招いて島津斉興(斉彬の父)が始めていたものだが、斉彬が集成館事業の一環に加えることでさらに技術が進歩。やがて伝統工芸品となり、今の鹿児島物産品になったかと思うと、まさに先見の明があったといえる。紡績所の建設とて同じ。ここでの技術がやがて大阪の堺へ波及し、全国へと伝わる。これがひいては豊田佐吉の豊田式木製人力織機、無停止杼換式自動織機へ繋がり、その資金を得た豊田喜一郎が国産自動車を造って、トヨタの礎を成すと思うと、日本の工業大国の原点が斉彬の集成館事業にあったと考えてもおかしくはないのだ。

斉彬は下級城下士であった西郷隆盛らの才を見い出し、要職に就かせている。殊に隆盛への寵愛ぶりは凄く、隆盛も斉彬を師と仰ぐほど。幕末動乱期から維新にかけて隆盛は薩摩藩の若い連中の崇拝の的になっていくのだが、それとて斉彬が彼を可愛がって才があることを示したからで、若い武士達の斉彬への崇拝が隆盛への崇拝へと繋がっていったと思われる。

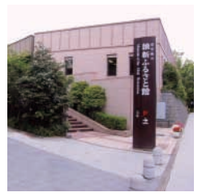
幕末にこの西郷隆盛や大久保利通、村田新八、大山巌など同じような地域の者が活躍するが、これは薩摩独自の郷中教育が影響している。郷中とは、青少年を稚児と二才(にせ)に分け、勉学・武芸・山坂達者(今でいうスポーツ)を通して先輩が後輩を指導する仕組み。このように区域ごとにこの手の教育がなされ、強固な絆が結ばれていたために同じ地域から幕末・明治の偉人が輩出された。ちなみに西郷宅があった加治屋町郷中は、前出の人物以外にも東郷平八郎や黒木為楨(ためもと)らを世に出し、近代日本の原動力の因を作っている。

■維新ふるさと館

鹿児島は幕末・維新の英雄を多く輩出した地である。記念碑や銅像は街中に多く見られるが、歴史観光の施設が少ない。そんな思いから平成8年(1996)に造られたのが加治屋町に建つ「維新ふるさと館」だ。同館では歴史を遊ぶをテーマにわかりやすく明治維新を解説。「幕末探訪・郷中教育コーナー」では、幕末期に主役となった下級武士の一日を再現。地域の先輩が後輩を指導する薩摩ならではの郷中教育を紹介。また、日の丸(日本の国旗)や君が代(国歌)が薩摩にルーツがあることなどを紹介した「世界を見ていた薩摩」や、西郷と大久保のエピソードを記した「薩摩エピソード」など展示が数多くある。特筆すべきは、地階にある「維新体感ホール」。ここでは「維新への道」と「薩摩スチューデント、西へ」を上演。西郷隆盛、大久保利通、勝海舟などの偉人のロボットが登場し、彼らによって維新史が語られる。基本的には薩摩史観によるもので「維新への道」は約25分。多彩な映像やロボットを使ってわかりやすく幕末から西南戦争までを描いており、基本知識がなくとも十分楽しめる内容になっている。

所 鹿児島市加治屋町23-1
☎ 099-239-7700
時 9:00~17:00(入場は16:30まで)
休 無休
¥ 大人300円、小人150円

<アクセス>
鹿児島中央駅から徒歩8分、カゴシマシティビュー 維新ふるさと館前下車すぐ、市電・高見橋下車徒歩3分



所 鹿児島市城山町7-2
¥ 見学自由
<アクセス>
カゴシマシティビュー西郷銅像前下車徒歩5分

■鶴丸城跡

江戸初期に島津忠恒によって築かれた平城で、屋形の形状が鶴が羽を広げたようだったことから鶴丸城と呼ばれた。何度も焼失、倒壊したが、明治7年(1874)に燃えてからは建物は再建されていない。今は石垣や堀が見られる程度。石垣には西南戦争時の弾痕跡が多く残っている。

■西郷洞窟

西南戦争の終盤、政府軍に追いつめられた薩摩軍が立て籠ったのが城山。西郷隆盛と私学校の面々がこの洞窟で最後の5日間を過ごしたと伝えられる。西郷隆盛は明治10年(1877)9月24日に洞窟を出て城山を下る途中で被弾。別府晋介の介錯で自刃した。

所 鹿児島市城山町19　¥ 見学自由　<アクセス>鹿児島中央駅から車で10分

■西郷隆盛・従道誕生地

下級武士が住む加治屋町からは、維新の英傑が多く出た。西郷隆盛・従道兄弟もそう。「維新ふるさと館」そばには彼らが生まれた場所が残っている。この地は今では公園となっており、市民の憩いの場である。

所 鹿児島市加治屋町5-2
¥ 見学自由
<アクセス>
カゴシマシティビュー
維新ふるさと館前下車すぐ

■西郷隆盛銅像

記念写真スポットとしておなじみのもの。西郷隆盛の没後50年を記念して昭和12年(1937)に建てられた。東京・上野のものは高村光雲の作だが、こちらは安藤照が作っており、陸軍大将らしく軍服で凛々しく立っている。

所 鹿児島市城山町4-36
¥ 見学自由
<アクセス>カゴシマシティビュー
西郷銅像前下車すぐ

■西郷従道邸庭園跡庭石

西郷隆盛・従道生誕地がある公園の一角に見られるのが、かつて東京・目黒にあった従道邸の庭石。目黒区がその跡地を整備して公園にしたのでその時に鹿児島に移された。中央の大きな石が伊豆石で、下の左側が紀州の青石、右が伊予の石で構成されている。

所 鹿児島市加治屋町5-2
¥ 見学自由
<アクセス>カゴシマシティビュー
維新ふるさと館前下車すぐ

■大久保利通銅像

フロックコートをひるがえし、いかにも明治の偉人らしく立つ大久保利通の銅像は、氏の没後100年を記念して昭和54年(1979)に彫刻家・中村晋也の手によって作られたもの。像の足元には暗殺された時にいっしょに命を落とした馬車夫と馬の像が彫られている。

所 鹿児島市西千石町1
¥ 見学自由
<アクセス>市電・高見橋下車すぐ

■小松帯刀像

薩摩藩の高級官僚として西郷・大久保らとともに奔走したのが小松帯刀。幕末期は藩政の中心となり、薩長同盟締結時には家老として活躍。大政奉還の勧告者として知られている。像は平成5年(1993)、西俣敏弘の作である。

所 鹿児島市山下町5-3
¥ 見学自由
<アクセス>カゴシマシティビュー
西郷銅像前下車すぐ

街中のいたるところに維新の偉人たちの像が

調所広郷像　調所の像は天保山公園にある。本来武士は二本の刀を差しているが、この像は一本のみ。これは調所が島津重豪より財政改革を命じられたときに、切腹しないようにと脇差を取り上げられた話にちなんだもの。そのため銅像も一本しか刀を差していない。

五代友厚像　五代の像は大阪取引所前のものが有名だが、鹿児島の泉公園にもそれが建っている。この像は大阪の人が鹿児島市に寄贈したもの。それくらい五代は大阪の恩人として関西人から親しまれている。

若き薩摩の群像　JR鹿児島中央駅東口広場には、薩摩藩が英国へ派遣した留学一行の像が一。その中にはNHK朝ドラで人気を博した五代友厚や、初代文部大臣となった森有礼、日本初の近代紡績業を興した新納久脩の姿も見られる。

篤姫灰 瑋院 像　鹿児島県歴史資料センター前には、NHK大河ドラマの主役を果たした篤姫の銅像がある。この像は大河ドラマ「篤姫」放映にちなみ、平成22年(2010)に建立された。